

謹賀新年

あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに希望に満ちた新年をお迎えの事と心よりお慶び申し上げます。輝かしい令和7年の幕開けにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日から能登半島地震が発生し、同じく秋には線状降水帯による大雨が激甚的な被害をもたらした年でありました。能登地方をはじめ、多くの方々が犠牲となり、被災されて困難な状況が続いております。一日も早く平穏な日々を取り戻される事を心よりお祈り申し上げます。

また、昨年はオリンピックキックオフという事で、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本のアスリートの活躍が私たちに元気を与えてくれました。MLBでは、大谷翔平選手が前人未踏の50&50を達成し、度目のMVPを受賞するなど明るい話題にも多く触れた年であったと思います。

斜里町においては、町民の皆様と一緒に策定した「第7次斜里町総合計画」が5月招集会議において承認頂き、今後10年のまちづくりが新たにスタートしました。また、「知床」が国立公園指定60年という節目を迎え、記念の行事などと合わせて「国立公園」であり「世界自然遺産」でもある「知床」の「顕著で普遍的な価値」とどう向き合うかを改めて考えさせられた年でもありました。

斜里町の経済をけん引する主要な産業においては、近年の異常気象に加え、物流経費や生産資材、燃油や電気料金の高騰という厳しい経済の中、漁業においては過去最高の漁獲高となり、農業においては「昨年とほぼ同等の生産額となったところ」です。観光においては、様々なイベントなど公民一体となった取り組みでしたが、誘客数では昨年を上回ったものの「コロナ禍前までには戻っていない厳しい状況が続いております。

一方で、インバウンドを含めた個人旅行者が比較的多く

見受けられ、大型観光バスが減少しレンタカーの利用が増加するなど、特徴的な変化が見られました。これらを通して「コロナ禍を経た新たな知床観光の転換期を感じた一年でもありました。これから流水の季節が訪れ、冬の観光シーズンを迎えますが、多くの皆様に安全で安心な斜里町を楽しんで頂きたいと思っております。

新たに迎えた令和7年は、昨年の「知床国立公園」指定60周年に続き、7月17日に「ユネスコ世界自然遺産登録20年」という節目を迎え、記念事業が計画されているところです。目まぐるしく移り変わるこの時代にあっても、変わることなく受け継がれてきたまちづくりの基本的な考え方「みどりと人間の調和を求めて」を、この時代を共にする町民の皆様、そして斜里町に思いを寄せるすべての皆様と共にみどりの価値と人々の営みの両立を図りながら斜里町の「まちづくり」を進めて行く決意を新たにしているところです。

令和7年の干支は、乙巳（きのと・み）になります。乙巳の持つ意味は、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味を持っている縁起のいい年といわれています。まさにまちづくりという永遠のテーマを、大きく前に進めて行くにふさわしい年ではないでしょうか。

斜里町は、自然、文化、そして人が一体となり、地域の魅力を発信することで未来を切り拓く可能性を秘めています。様々な課題や困難を乗り越えながら、現在と未来の町民の皆さまの夢や希望がこの町で実現し、誰もが「住んでよかった」と心から思える町を皆様と共に築いていける様、全身全霊で取り組んでまいります。

結びとなりますが、本年一年斜里町の皆様、斜里町に思いを寄せるすべての皆様におかれまして、健康で実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



年頭のごあいさつ

斜里町長 山内 浩彰